

平成21年2月4日

第4回健康研究推進会議

資料6

スーパー特区

「迅速な創薬化を目指したがんペプチドワクチン療法の開発」

研究代表者

東京大学医科学研究所・ヒトゲノム解析センター

中村祐輔

目指す成果の社会的意義・有用性

がんペプチドワクチン療法は、1990年代の希望・期待から、2000年当初の失望の時期を経て、今や、大飛躍する可能性が持たれているがん治療法である。

